

学校法人様向け 研修コンテンツ案内

2013年10月

NPO 子供の成長と環境を考える会

Link and Create

福島 毅

講師プロフィール

福島 毅 (フクシマ タケシ)

Link and Create 代表

NPO 子供の成長と環境を考える会 理事

(株)HRT パートナー

日本橋学館大学 非常勤講師

一般社団法人教育共創研究所 上席研究員

柏まちなかカレッジ副学長

NOB フューチャーセンターディレクター

気象予報士・防災士

ワークショップデザイナー

ブログ ”教育のとびら” ”異星人思考法” 主宰

神奈川県秦野市出身。1962年生まれ。北海道大学理学部大学院地球物理学（地震学）修士課程修了。大学院修了後、株式会社日立製作所に入社。宇宙技術推進本部にて宇宙システムの設計・研究などに携わる。2年間のシステムエンジニア生活を経て転職。

千葉県の高校教員（地学および情報が専門）になる。県立柏北高校、県立船橋東高校、県立行徳高校、市立松戸高校、県立東葛飾高校を歴任。

また地域においては街のあちこちをキャンパスとし、地域住民が主役となって活躍する「柏まちなかカレッジ」の創設・運営に関わっている。

2011年には行政セクターでは日本で初となる柏フューチャーセンターのコーディネーターを務め、2013年7月より柏市内の民設コワーキング NOBにおいてフューチャーセンターディレクターを務める。2013年4月に独立。Link and Createを立ち上げ、教員研修事業や教育コンサルティング業務、人の成長を支援する各種セミナーなどの企画・開催をおこなっている。

◇講師担当（教育関係のもののみ）

柏市教育委員会 「対話を中心とした授業づくり」「活用型学力育成講座」

「中学校5年経験者研修」

一般社団法人教育共創研究所「高等学校における対話型の授業実践について」

NPO 子供の成長と環境を考える会「新人教員研修特別プログラム」

日本教育大学院大学 「教員免許講習」

日本橋学館大学 「キャリアデザインⅡ」「キャリアデザインA」

◇著書等

著書に『イントラネット100のアイデア（正高社2000年）』

共著に『教科「情報」実習へのフライト（日本文教出版2001年）』

教科書（共著） 『社会と情報（日本文教出版2012年）』

## 具体的な研修内容事例① 対話型授業とアクティブラーニング講座

講座は主にワークショップ形式ですが、その中に「講義」と「演習」、「振り返り」を含んでいます。

### **講義**：対話型授業について

アメリカの国立訓練研究所によれば講義を一方的に聞くだけの授業の定着率は低く、生徒自身が授業内容を他人に説明できるレベルに達してその定着が 9 割になるといいます。これは我々教員も他人に説明できるほどになってはじめて学問を理解できた感覚になる経験からもわかります。従って、私の授業手法でも、生徒同士の発表や討論場面をうまく組み込むことなどにより、学習内容の定着をあげるようにしています。このことは同時に生徒が主体的に学習に取り組む習慣をつくることも意味します。講義では生徒主体のアクティブラーニングの手法やその成果について、海外の事例や本校での実践例などをスライドやビデオを通して説明します。

また、教科指導や生徒指導など、先生方の学校生活での実践事例を受講者自身に持ち寄ってもらい、ペアやグループで解決策を話し合いますが、それに加えて、会議運営やまとめ方、ファシリテーション技術一般についての基礎講義を行います。

**演習**：講義を元に、受講者がペア・グループ・参加者全員という単位で実際のワークショップを行います。ワークショップでは、ワールドカフェやオープンスペーステクノロジー、質問を中心とした会議運営などの方法を体験していただきます。体験自体を学ぶ意味もありますし、体験を通して教室内での授業ファシリテーションや授業でのコーチングを知る機会にもなります。

扱う内容については、各教科内容のこともあれば、初任研・5 年目研修、10 年目研修など、これらの実践自体が模擬授業としての役割を持っており、実際の教科時間での指導や生徒指導などに役立てることができます。

**振り返り**：学習内容を定着させるための振り返りを必ず行います。また、生徒自身の問題解決においては、新たな知識の習得や感情面での気づきなどを再確認するためのステップとなる重要な場面です。この振り返りの意味や方法などについて、実際に体験していただきながら学んでいただきます。

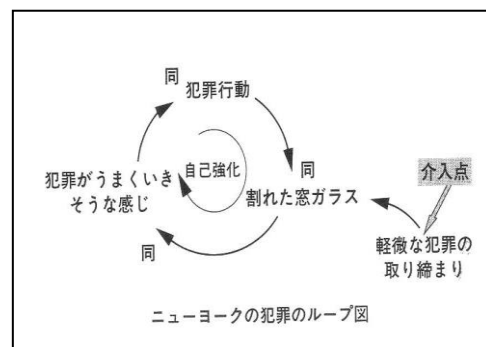


▲2012 年 8 月実施 柏市教育委員会主催 「対話を中心とした授業づくり」より

## 具体的な研修内容事例② 思考方法（批判的思考とシステム思考）の講座

**講義**：世にあふれる情報量が爆発的に増える中で、真実の情報を見極める力がますます必要になってきています。福島第一発事故でも示されたように、マスメディア発の報道ですら隠蔽されたり、フィルターがかけられたりしており、我々には報道される情報を批判的に見る力、読み取る力が一層求められるようになってきています。これらのクリティカルシンキング（批判的思考）を教師が体系的に学習する機会も少なく、情報を鵜呑みにしたり自分で自立的に正当な判断ができない生徒の増加につながっていく懸念があるのではないのでしょうか？ そこで、実際の時事問題の事例をもとに、クリティカルシンキングの基礎講義を行います。

また、複雑多様化する社会において、原因・結果の把握→問題解決という単純な解決は難しいケースが増えており、学校現場で発生するトラブルや保護者対応にもあらわれてきています。そこで注目されているのがシステム思考です。ニューヨークの窓割れ理論でも有名になりましたが、軽微な犯罪を取り締まることで重大犯罪を未然に防いでいったのは、システムとして何が起きていたかをシステムシンキングでうまく解析したからだとも言われています（右図）。問題の全体像を把握するためのツールとしてシステムシンキングはこれから脚光をあびていくことでしょう。こうしたシステムシンキングの基礎理論の講義をいたします。



「入門！システム思考」 枝廣淳子より

**演習**：講義を元に、上記の思考法を適用した演習をワークショップ形式で行っていきます。

具体的にはクリティカルシンキングでは、実際の報道文から意見と事実の区別をしたり、ある設定された問題について賛成派・反対派の両方の立場からミニディベートなども行っていきます。ディベートを通して、個人の偏った考え方、個人がどのようなフィルターを通して世の中を見て

それに加えて、システムシンキングの演習では、教育の問題をはじめとする複雑な実際にある社会問題を題材に、システム図と呼ばれるチャートを描くところまでを個人・グループで行っていきます。机上の空論ではなく、実際にシステム図を描くことで、問題を俯瞰しつつ深掘りすることができるようになります。通常、ビジネススキルとして習得するには時間がかかるこれらのツールを、短時間で効率的に習得できる独自の方法を使いながら、楽しみながら学んでいただきます。

### 具体的な研修内容事例③ いじめをなくすコミュニケーション講座

**講義**：いじめや体罰の問題がクローズアップされていますが、これを総合的な学習の時間や道徳の時間などを使い、テキストに書いてあることを生徒に伝達するといった学習だけで十分定着するとは言えないのではないのでしょうか？

そこで御提供するのは、オランダの小学生向けのシチズンシップ教育「ピースフルスクール」と、NVC（Non-Violent Communication, 非暴力コミュニケーション）です。


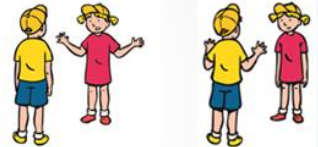


オランダでは小学生同士の争いは、基本的に生徒同士で解決していくのですが、その時に、自分や他人に起きている感情を言語化し、きちんと相手に伝えるテクニックを体系的に学ばせています。このピースフルスクールのコンテンツを使ったワークショップの日本での初開催を計画しています。講義ではピースフルスクールのエッセンスや体系、実際の教育現場での適応例、サイバーいじめの解決方法などについてご説明します。

また NVC とは、暴力や力によって相手を支配し服従させるという一方的なコミュニケーションから脱し、私たちに本来備わっている人を思いやる気持ちを引き出すことで自分と他人の交流を容易にするコミュニケーションの体系で、こちらは子供から大人まで使える強力な人間関係構築のツールです。ただひたすら相手を観察し、感情に気づき、自分や相手が必要としていることに気づくというシンプルなプロセスなのですが、これをどのように根づかせるかという方法論について講義します。

**演習**：講義を元に、上記のプログラムを教室で展開した場合を想定した演習を用意しています。

実際に、ピースフルスクールや NVC の一部のプログラムをワークショップとして行ったり、生徒と先生役を想定したロールプレイを通じて模擬授業として参加していただきます。

## ピースフルスクールの問題解決

<p>① いらいらせずに、まず落ち書きしましょう。</p> 	<p>② お互いに黄色の帽子をかぶり、自分の言いたいことを言います。相手の言い分にも耳を傾けます。</p> 
<p>③ 話し合っ、お互いに納得のいくウィン・ウィンの解決を探します。</p> 	<p>④ 相手と握手して、解決にとりかかります。</p> 

Copyright © 2012 CED-Groep, Rotterdam, The Netherlands, Kumahira Security Foundation (訳)

その他に、管理職や主幹クラスの学校運営、学校組織改革、会議ファシリテーション、保護者対応のプログラム、ITを使った授業展開、生徒・児童向け情報モラル、教育先進国（フィンランド、オランダ、デンマーク等の現地）の現地教育事情などのコースもご用意できます。

## ■ 1 ■ 生徒が主体的に学びに向かう授業づくり

「生徒が学習に対して受け身になってきている」、あるいは、「学びに積極的な生徒とそうでない生徒の差が激しい」と感じられている先生は少なくないと思います。また、一見まじめにノートを取っていたり試験で成績が良い生徒も、試験後あるいは大学受験後に学んだことがすべて脳から消え去っている。このような学習が繰り返されているのは、日本の未来はありません。学習したことが社会で役立ったり、のちの自分の人生に価値あるものとして残っていく授業とはどういったものなのでしょうか？

また社会においても、指示待ちや組織内で仕事をする同僚や上司とのコミュニケーションがうまくいかないで悩んでいる新人が増えていることが問題としてクローズアップされています。授業内容の効果的な習得はもとより、授業を通じて、コミュニケーションスキルをアップさせる方法が当研修のテーマです。

研修名： 生徒が主体的に学びに向かう授業づくり

研修テーマ：

- ・生徒が自ら主体的に学ぶ習慣をつけるための授業がデザイン
- ・上記の授業を実施し、ふりかえり、自ら改善する力を持つ

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・なぜ、今日の生徒は受け身なのか？ 今の時代が養成している学びとは何か。
- ・アクティブラーニングを中心とした学習者中心の授業設計について
- ・授業の実際とリフレクション（ふりかえり）メソッド
- ・授業内での質問や対話、ファシリテーション全般のスキル

必要な時間

レベル1（概要コース） 2時間×1

- ・生徒が主体的に学ぶための環境づくりと授業デザイン全般

レベル2（アクティブラーニングの基礎） 2時間×2

- ・実際の授業デザインや授業を実施しての振り返り、改善について

レベル3（質問や介入、ファシリテーションスキル） 2時間×2

- ・効果的なグループワーク、教師からの質問や介入の仕方、授業内でのファシリテーション

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

## ■ 2 ■ 教員のメンタルヘルスとタイムマネジメント

提出すべき報告書や事務作業の増加、文部科学省や教育委員会からの要請、分掌や部活動など、現場教員の仕事量は年々増加しています。加えて保護者、地域などからもプレッシャーを受ける学校現場は、大変ストレスフルな状況にあり、他の職種と比べても多くの休職者や精神疾患を抱えている異常事態となっています。

業務量をどのように減らし、効率的に仕事をしていくのか？ また空き時間や教員が情報交換したり生徒と接する余裕ある時間を作っていくかというタイムマネジメント。そしてメンタルヘルスを念頭においた教員の労働環境や工夫についての研修です。特に精神的に大変な状況に追い込まれないための予防策やストレス低減の職場づくりなど、多忙な教育現場にカスタマイズされた研修内容となっています。

研修名：教員のメンタルヘルスとタイムマネジメント

研修テーマ：

- ・無駄を省き効率をあげる仕事の仕方、タイムマネジメントを知る
- ・健康な精神バランスの上で仕事を続けるための方法と実践を知る
- ・ストレスを低減させる組織づくりを行う

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・業務量を減らすための工夫と教員のタイムマネジメント
- ・精神バランスをくずさないための防衛策、予防策
- ・精神バランスをくずしてしまったときの対処方法
- ・ストレスを生まない組織づくり、職場環境をつくるための方策

必要な時間

概要コース 2時間×1

- ・講義中心

演習コース 2時間×1

- ・ロールプレイを含む演習など

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

### ■ 3 ■ 保護者および外部マスメディア向けの対応策

核家族化や少子化に伴い、親が子供に接する時間、密接度が増してきた今日、ささいな案件でも保護者が学校にさまざまな要求、要請をしてくるが増えています。中には、理不尽な主張、申し出をしてくる保護者もいることでしょう。

こうした場合に、対応マニュアルどおりの機械的な対応は、さらに相手の不信感や怒りを買うことが予想されます。製品のクレームと違い、生徒の保護者の方からの過度の要望、苦情対応については、専門知識と演習が不可欠と思われます。

実際の事例などをもとに、信頼感を抱いていただける接し方などを研修します。

研修名：保護者および外部マスメディア向けの対応策

研修テーマ：

- ・保護者と接する基本スタンスを知る
- ・困難なケースの事例分析と対応策を知る
- ・レジリアンス（対応力）ある組織づくりを行う

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・変わってきた保護者に対応するための基本理念
- ・事例に基づく対応例の学習
- ・信頼感とレジリアンスを持つ組織の作り方
- ・マスメディア対応（事件になった場合の報道対応）とソーシャルメディア（掲示板、ツイッター、フェイスブック等）での対応

必要な時間

概要コース 2時間×1

- ・講義中心

演習コース 2時間×2

- ・ロールプレイを含む演習など

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。



#### ■ 4 ■ 今日の生徒への対応

多様化する価値観、そして多様な生活環境において、生徒の気質や感じ方、考え方も大きく変化していますし、さまざまなタイプの生徒が乱立してきているのが学校現場です。そして最近多いケースとして、生徒が学校のような大勢の人が集まる環境に違和感を覚える、対面しても目相手に目を合わせられない、他人とのコミュニケーションを苦手とするといったことがあります。逆に、競争を好まず平和やよりよい地球環境、人との絆を大切にするといった側面もあります。

今日の生徒の悩みに寄り添っていく手法やカウンセリングマインド、新しい接し方（叱り方、ほめ方、共感の仕方など）はどうしていったら良いのでしょうか？ 理論とともに事例も扱い、今日の生徒への対応について深めていく研修です。授業時、部活指導時、進路指導やキャリア教育時など様々なシーンについて、学校ごとの実情に合わせた生徒対応について、ワークショップ形式で深めていきます。

研修名：今日の生徒への対応

研修テーマ：

- ・今日の生徒の特徴を知り、耳を澄ます。
- ・今日の生徒との新しいコミュニケーションの取り方を学ぶ
- ・授業時、部活指導時、進路指導時の生徒対応に関する基本スタンスを知る

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・今日の生徒の特徴をピックアップし、分析する。（実習）
- ・新しいコミュニケーションの取り方。（講義）
- ・学校生活シーンにあわせた生徒対応の仕方（講義と実習）

必要な時間

概要コース 2時間×1

- ・講義中心

演習コース（ワークショップ） 2時間×3

- ・ロールプレイを含む演習など（授業編、部活動編、進路編）

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

■ 5 ■ 生き生き職場づくり

みなさんの学校の職場の雰囲気（職員室の雰囲気、学年職員団の雰囲気、会議の雰囲気）はいかがでしょう？ 日々の仕事に圧迫されて雑談する時間も取れないとお嘆きではないでしょうか？ また同僚同士や教員としての先輩後輩間、同じ学校の勤務年数の違いによる意識のずれ、コミュニケーションギャップはないでしょうか？

先生方が生き生きされている学校は、学校の理念やビジョンが共有されており、個々の先生方の個性が尊重されたり、違和感を率直に話し合える職場の雰囲気があることが多いと言われています。毎日の職場が生き生きしてこそ、生徒への対応にも余裕が出ますし、ひいては生徒の生き生きした毎日につながっていくはずです。

当研修では、生き生きした職場をつくるにはどうしたら良いのかという方法論や、実際に生き生きした職場にするためのワークショップを開催します。

研修名：生き生き職場づくり

研修テーマ：

- ・生き生きした組織づくりのノウハウを知る
- ・生き生きした職場を継続させるための工夫
- ・効果的な会議運営スタイル

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・企業に学ぶ、生き生きした職場の雰囲気づくり（講義）
- ・生き生きした職場から生まれるメリット（講義）
- ・生き生きした職場にするためのミニワーク（実習）
- ・能率のいい会議ファシリテーション（講義と実習）

必要な時間

概要コース 2 時間× 1

- ・講義中心

演習コース（ワークショップ） 2 時間× 3

- ・互いを知り、仲間づくりにつながる演習

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

## ■ 6 ■ 白熱する対話型授業のつくり方

数ある授業スタイルの中で、ハーバード大学マイケル・サンデル教授の「白熱教室」に代表されるような1対多の対話型授業は、授業技術としては最高難度といえましょう。問いと講義の組み立て、生徒の発言に臨機応変に対応して授業を即興でつくっていく柔軟性と授業構想力。実際に、1対多（教員がひとり教壇に立ちつつ、クラス全員を相手にライブで授業を進行させていく）の対話型授業をはじめ、ペアワークやグループワークでの対話型授業をつくっていくためのノウハウに関する研修です。

研修名：白熱する対話授業のつくり方

研修テーマ：

- ・ペアにおける対話型授業展開を知り、自分の授業で応用できるようになる。
- ・グループにおける対話型授業展開、自分の授業に応用できるようになる。
- ・1対多のライブ型対話授業の授業実践をマスターする。

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・ペアによる対話型学習。問いの例と展開のコツ。（講義と実習）
- ・グループによる対話型学習。討論と対話の違いなど。（講義と実習）
- ・1対多のライブ型対話型学習。授業の組み立てと実践（講義と実習）

必要な時間

概要コース 2時間×1

- ・対話型授業の理論と実践事例

実践コース（ワークショップ） 2時間×2

- ・対話型授業の組み立てと模擬授業実践。

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

## ■ 7 ■ 生徒自立型のコミュニケーションの場の作り方

社会人基礎力として最も重要視されているのが、コミュニケーション力です。

しかしながら、授業だけでは生徒が相互に円滑なコミュニケーションを取る機会が少なく、これは小学校から中学、高校と高学年になるにつれて学ぶべき量が増えることと、自我が目覚めて自分の意見表明にシャイになるため、コミュニケーション量そのものが少なくなっているのが現状です。もちろん部活動などの場面でコミュニケーションは発生しますが、あくまで狭いコミュニティ内のものとなってしまいます。

多くの社会人が入って大々的に対話の場をつくるという方法もありますが、機会をつくるのが困難な学校もあるかと思います。社会人や大学生が介入しなくても生徒同士が、自分たちの力でコミュニケーションの場をつくれるような方法があります。どんな先生でも、方法は手順書にならって行っていただくことで、学級活動、学年活動などで応用していただくことができます。

研修名：生徒自立型のコミュニケーションの場の作り方

研修テーマ：

- ・生徒が自立してコミュニケーション力をつける方法を知り実践する

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・大人が介入する場としない場のコミュニケーションの違い（講義）
- ・生徒によるファシリテーションスキルアップのプロセス（講義）
- ・生徒に任せて行うことのできる教材と進行例（講義と実習）

必要な時間

概要コース（理論を中心とした講義） 2時間×1

実践コース（ワークショップ） 2時間×2

- ・自立型コミュニケーション授業の実際

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

いじめの構造はご存知のように大人社会にも存在します。

いじめには至らなくても、それに近いあるいは、そういう可能性が皆無の学校はないかと思えます。いじめの根絶は加害生徒の発見・指導では終わりません。

当研修では、いじめが発生する構造そのものについて皆さんで思索し、いじめという現象がおきる社会システムを構造として捉えていきます。そののちに、いじめを生み出す諸原因について、どのようなアプローチをしていくことが有効であるか、NVC（非暴力コミュニケーション）やオランダの小学校で導入されているピースフルスクールなどにいじめ撲滅のヒントがありますので、それらの方法などを紹介しながら、日本の教育現場で応用できる知識とスキルを習得していただきます。

研修名：いじめのない学校づくり

研修テーマ：

- ・いじめがおきる社会構造をシステムとしてとらえる。
- ・いじめ防止のための NVC（非暴力コミュニケーション）やピースフルスクールの取組を知る。
- ・いじめを防止するための予防策、雰囲気づくり方を知る。

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・いじめは、どのような条件で発生するのか（講義）
- ・NVC（非暴力コミュニケーション）やピースフルスクールによるいじめ防止・抑止プログラム（講義）
- ・いじめ発生事例に防止プログラム、抑止プログラムを適用する（講義と実習）

必要な時間

概要コース（理論を中心とした講義） 2時間×1

実践コース（ワークショップ） 2時間×2

- ・事例をもとにした NVC のロールプレイなど

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

## ■9■ イライラ、怒り、褒めのマネジメント

学校では体罰やセクハラ、パワハラなどの問題。

家庭ではDV（ドメスティックバイオレンス）などの問題が急激に増えています。

これはスピード化や効率化、成果主義などに伴い、よりストレスフルな社会になっていることが原因と考えられています。イライラや怒りの感情を抱くのは人間として当然のことでしょう。しかし、その表現方法はトレーニングによりマネジメントすることができます。怒りをコントロールするマネジメント法はアンガーマネジメントと言われており、近年、研究成果を日常に活かす試みを取り入れられています。

これら、怒りのコントロール方法や、イライラの防止法について研修を行います。加えて「褒める」といった単純でポジティブに思える場面でも、褒め方によっては相手に期待によるプレッシャーを与えて本来の能力を逆に止めてしまうこと知られており、そうした盲点を知った上での正しい褒め方についても理論と演習で補っていきます。

研修名：イライラ、怒り、褒めのマネジメント

研修テーマ：

- ・イライラの予防とイライラしない生活習慣作り
- ・怒りのコントロールとマネジメント
- ・よい褒め方とわるい褒め方

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・人間の負の基本感情である怒りやイライラについて、うまく対処する方法
- ・生徒に効果的な褒め術と褒める際の注意点

必要な時間

概要コース（理論や実例を中心とした講義）

2時間×2

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

## ■10■ ネット社会の正しい歩き方

プロフ、ブログ、mixi、twitter、facebook、LINE と、時代の流れにより、次々とソーシャルメディアが登場し、ルールやエチケットが整備される前に、生徒たちの危険やトラブルが先行している現状があります。

まずは、こうしたコミュニケーションツールの存在や仕組みを教員が知ること、そしてトラブルを未然に防ぐ方法を知っておき生徒にアドバイスできること、さらには新たなコミュニケーションツールが出てきたとしても、原則を生徒たちが知っておくことでトラブルを防止することができます。

また、こうしたコミュニケーションツールは、いじめの温床にもなりがちなので、教員が知識として知っておき、先手を打って生徒に指導しておくことが必須です。

研修名：ネット社会の正しい歩き方

研修テーマ：

- ・多様なコミュニケーションツールを知る
- ・コミュニケーションツールにひそむ罠やトラブルを知る
- ・トラブルを未然に防ぐ手段について知り、対策を講じる

研修内容：（講義＋実習＋振り返りを含みます）

- ・多様なコミュニケーションツールとトラブル例（講義）
- ・トラブルを回避する方法（講義）

必要な時間

概要コース（理論や実例を中心とした講義）

2時間×2

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。

## ■ 11 ■ 諸問題を持ち寄っての問題解決

学校には、学校に応じた独自のお悩みごとや、解決しておきたい問題があります。これらの問題を解決するためのワークショップを研修として行います。

事前に問題となっているテーマについて、取りまとめていただくか、問題の抽出から研修をスタートさせるかをお選びいただけます。

内容の大小によって、開催回数は変化します。問題自体を解決に導くことはもちろん、解決の手法自体（ギャップアプローチ、ポジティブアプローチ、ホールシステムアプローチ等）についても学んでいただける研修となっています。

研修名：諸問題を持ち寄っての問題解決

研修テーマ：

- ・勤務校独自の問題を発見すること
- ・問題を理解し、解決に向けてアプローチすること
- ・問題解決の手法そのものを知ること

研修内容：(ワークショップで進行します)

- ・各学校様によってテーマが異なります。
- ・問題発見や問題解決のアプローチをご紹介します。

必要な時間

ワークショップ                      2～3時間×n回

システム思考、デザイン思考、ワールドカフェ、OSTなどのホールシステムアプローチによるワークショップを実施します。

費用

- ・研修規模、回数などにより、別途、ご相談させていただきます。